

# 夏秋ギク型スプレーギク新品種‘紀州サマーリンド’の特性 ～夏に咲く鮮やかなピンク色品種を開発～

## 1. はじめに

県内の夏季のスプレーギク栽培で導入されている品種は、茎葉が軟弱、花の日持ちが悪いといった問題から、長年産地に定着する品種が少ない状況にあります。

そこで、2015年より①茎・葉が強固、②暗期中断打ち切り(消灯)日から49日程度で開花、③秀品率が高い、④水揚げや花持ちが良い、⑤12～13時間日長で開花揃いが良いことを目標として品種の育成に取り組み、新たに‘紀州サマーリンド’を育成しました。ここでは、‘紀州サマーリンド’の特性について報告します。

## 2. 育成経過

2015～2017年にピンク色品種‘デュエル’とピンク色品種‘ワカミレイユ’の交配種子から選抜を行い、系統WSM160502を交配親として選抜しました。2018年に訪花昆虫による交配を行い、系統WSM160502から交配種子を得て、2019年にはその種子の実生266個体を定植し、10系統を1次選抜しました。

2020年に生産者等関係者を招いた品種検討会で茎葉の固さや到花週数、総合的な切り花品質等の評価を聞いた上で3系統を2次選抜、2021年にも同様の品種検討会を開催し、系統WSM190707を最終選抜しました。

2022、23年に現地適応性試験を行い、形質の優良性、安定性を確認したので、系統WSM190707を品種登録候補とし、2024年6月に品種名‘紀州サマーリンド’として品種登録出願を行い、10月24日に出願公表されました。

## 3. 品種特性

### (1)開花特性

シングル咲きの品種で、花色は明るいピンク色になっています。スプレーフォーメーション

(花房の形)は側花と比べて頂花が突出する形になっています(図1)。

消灯後、12～13時間の日長条件とすることで、消灯日から45～50日程度で安定して開花します(図2)。



図1 ‘紀州サマーリンド’の開花時の外観  
(2020年8月17日撮影、消灯後48日目)

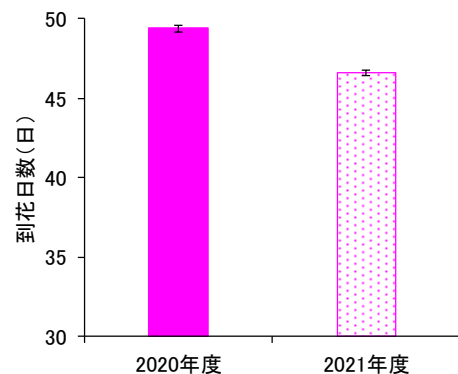


図2 ‘紀州サマーリンド’の消灯から開花までに要した日数

消灯から開花まで13時間日長で管理した  
エラーバーは標準誤差を示す

### (2)切り花品質

生育初期からよく伸長し、収穫時の草丈は‘セイリポル’より高く、‘アリエス’と同程度であり、安定して出荷規格2Lの基準である80cmを超えます。(図3)。

収穫時の重量は、‘セイリポル’より重く、‘アリエス’と同程度であり、出荷調製後の重量は、この2品種と同程度になります(図4)。

茎は、‘アリエス’より太く、‘セイリポル’より細くなりますが、中が充実していて固く、

葉は、濃い緑色で斜上して着葉し、比較的小さく固さがあります（データ省略）。

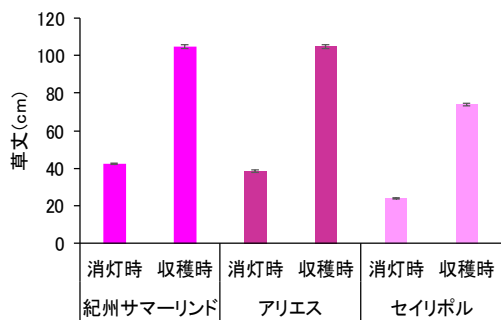


図3 '紀州サマーリンド'の消灯時・収穫時の草丈

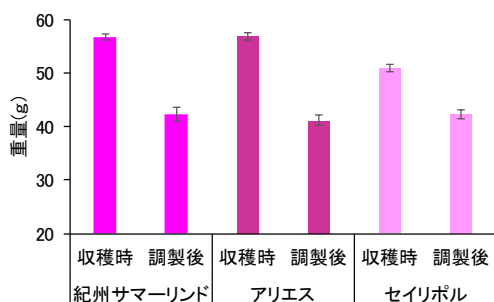


図4 '紀州サマーリンド'の収穫時・調製後の重量

調製後の重量: 切り花を 80cm、70cm に調製し、基部から 20cm までの葉を除いたときの重量

### (3) 水揚げ、日持ち性

収穫後の切り花は、'セイレウカ'と同等以上の吸水力があり、2日間乾式保管しても一晩の水揚げで萎れが速やかに回復します（図5）。

鑑賞条件下では、およそ2週間後から花卉の退色が進行しますが、3週間経過後も花粉による汚れや花卉の脱落は少量になります（図6）。

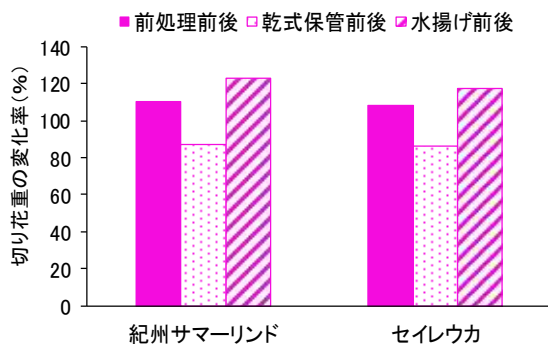


図5 '紀州サマーリンド'の水揚げおよび乾式保管による切り花重の変化率

前処理は乾式保管の前に5℃で一晩吸水  
乾式保管は箱詰めして2日間25℃の室内で保管  
乾式保管後の水揚げは25℃の室内で実施  
変化率=処理後の切り花重/処理前の切り花重×100



図6 '紀州サマーリンド'の日持ち試験中の外観の変化  
25℃一定の恒温槽で実施

### 4. おわりに

夏秋ギク型スプレーギクの県オリジナル品種として、'紀州サマーリンド'を育成しました。

ピンク色のシングル咲き品種であり、12~13時間の日長条件で安定して開花します。また草丈の伸長は非常に良く、切り花の重量も既存の品種と同等以上であることから、高い秀品率が期待でき、植物成長調整剤であるビーナイン顆粒水溶剤を処理することにより、品質向上を図ることが可能であると考えられます。

今後、'紀州サマーリンド'のビーナイン処理による伸長制御技術などを検討し、生産現場への情報提供を強化するとともに、品種育成を継続して行うことで、優良な形質を持つ白色・黄色品種の開発を目指します。

(栽培部 井溪 奏一朗)